



経堂バプテスト教会

教会短信

2018年6月24日

No. 77

牧師 間瀬 善彦

NHKドラマ『どこにもない国』（3月24日、31日放送）を見て、感銘を受けました。政治家でも軍人でもない3人のごく普通の男性が、戦後満州に取り残された170万の日本人を救うために活躍されたことを初めて知りました。1945年8月9日、ソ連軍は突如満州に侵入してきました。関東軍と呼ばれた日本軍は、この奇襲攻撃に成すすべもなく、満州全土はソ連軍に占領されてしまいました。ソ連は満州支配のため外の世界との通信手段を一切断ち切ったため、日本も世界も満州で何が起きているのか一切わかりませんでした。

満州の日本人は、敗戦の民として苦汁を飲まなければなりません。職を奪われ、銀行口座も凍結され、満州の出入りも固く禁じられました。ソ連軍や中共軍、さらには盗賊による暴行・略奪が頻発し、皆おびえながら生活しなければなりません。

その時、この満州に取り残された人びとを無事日本に引揚げさせようと、立ち上がった3人の男がいました。丸山邦雄、新甫八朗、武蔵正道でした。丸山を中心にまず彼らがしたことは、満州の現状、取り残された日本人がどんなに苦しく危険な状態に置かれているかを、日本の人びとに知らせることでした。彼らは自分の家族を残して、命の危険を冒しながらも日本に帰ることにし、日本政府やGHQのマッカーサー司令官に掛け合うことにします。丸山の妻は、クリスチャンだったので大連のカトリック教会に囲まってもらうことにし、レイン司教には紹介状を書いてもらいました。丸山の妻が、教会で彼らの無事を祈っている姿が良かったです。彼らは国民党軍に協力をもらい、車で脱出したのですが、途中でアメリカ軍に拘束され、スパイと間違われ銃殺されそうになりました。その時、丸山の妻が渡してくれた十字架とレイン司教の紹介状が彼らの身元を証明し、奇しくも彼らの命を救ってくれることになりました。

彼らは日本全国を講演して回り、満州に取り残された人びとがどんなに悲惨な状態に置かれているかを訴え、引揚げが実現するように努力しました。そしてやっと、1946年12月ソ連の占領地域から引揚げが始まりました。1947年1月、丸山が家族と再会した時、彼が語った言葉が特に印象的でした。彼は妻に「神がいつも共にいてくださった」と語ったのです。170万人もの引揚げという大事業は彼ら人間だけの力によるものではなく、神がいつも共にいてくださったから成し遂げることができたのだ、ということです。

イエスさまの眼差し



「... この腫瘍は悪性です」「先生、ということは乳癌ということでしょうか」「はい、残念ながら...」妻と私は、ディスプレイに映し出された診断画像に釘付けになっていた。主治医のその一言で、頭からサーっと血の気が引いていった。映画やドラマで観たワンシーンを、私たちが体験することになるとは。主治医の言葉一つ一つを、聴き洩らさないよう懸命にノートに書き留めていた。妻は、頭が真っ白になって、主治医の言葉を全く覚えていなかったという。この日から二か月遡る。妻は、胸のしこりが気になり、近くの病院を受診したところ、乳癌の可能性もあり得るとの診断だった。乳房の一部を採取、顕微鏡による精密検査を勧められ、順天堂大学医学部附属練馬病院への紹介状を頂いた。寝耳に水、青天の霹靂だった。ただこの時点では、何かの間違いか、炎症の一種だと妻を励ます一方、内心は恐ろしかった。「イエスさま、妻が癌ではありませんように、そのために必要ならば、私の命を縮めてでも助けてください」と祈った。しかし、結果は冒頭の通りである。時が過ぎ、現実が否応無しに突きつけられると、持っていきようのない憤りと怒りがこみ上げ、それをイエスさまにぶつけた。「これだけ真剣に祈ったのに、何故聞き入れて下さらないのですか。礼拝には毎週出席して、献金だってきちんと捧げているではないですか」と。一方で、私の信仰はこんなにも薄っぺらいものなのかと憐れんでいる自分がいた。その後、妻は摘出手術を受け、転移を防ぐために、一か月間の放射線治療と三か月間に四回の抗癌剤治療を受けた。抗癌剤の副作用で、綺麗な頭髮は全て抜け、体中の痒みや、免疫低下による急な発熱が妻を襲った。この様な状況でも、妻は家族に明るく振る舞い、「一番辛いのはパパだよね」と気遣った。折しも悪いことは重なり、私の父親は末期腎不全、母親は圧迫骨折のため入院中だった。母親が退院すると断言して、主治医と陰悪な状態になっているため、病院から呼び出しを受けた。家族で説得を試みるも全く聞く耳を持たず、匙を投げかけた。しかし妻が「お母さん、私も癌が怖いけど頑張るから、お母さんも頑張りましょう」と一言伝えた。あれだけ文句を言って聞かなかった母が、すんなり納得した。その後、抗癌剤の投薬後は、体が相当きついらしく、ソファーに横たわって屋外の庭をずっと眺めていた。私にできることは、午前中に仕事を休んで寄り添い、一緒に窓の外を眺めることだけだった。それでも、体調が悪くなければ、教会の礼拝に行くことが楽しみだった。牧師夫妻始め教会員の方々は、いつも妻のために祈っていて下さり、とても励まされた。今では、幸い妻に転移はなく、元気に生活を送れるようになった。癌ではないように願ったが癌になった。しかし、祈りは聴き入れられた。私が怒りをイエスさまにぶつけていた時も、静かにじっと受け入れて下さった。あの十字架の苦しみを全て受けてこれ

た方なのだから。弟子であるペテロは、命を捨ててもイエスさまに従うと言ってきたが、イエスさまが捕らえられた後に、三度その人を知らないと言ってしまった。その時鶏が鳴き、イエスさまが振り向いて、ペテロを見つめられた。そのイエスさまの眼差しは、いかに柔和で慈愛に満ちていたであろうか。このような足りない私でさえも赦されていることに感謝である。

「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共に、それに耐えられるよう、逃れる道をも備えていてくださいます」(新共同訳聖書)。

T. W



- ・ 6月17日(日) 教会では日頃のお父さま方や、
男性の方の働きを覚えて感謝の時をもちます。
- ・ 5月13日(日) は、お母さま、女性の方にも感謝の時をもちました。

聖書を学ぶ会

- 牧師から詳しく聖書を学びます。
- 讃美歌も歌い楽しい会です。

毎週火曜日 午後1時30分～2時30分

聖書研究・祈り会

- 静かな夕べに聖書を学びます。
- 共に祈り合います。

毎週水曜日 午後7時30分～8時30分

教会学校（幼児科）

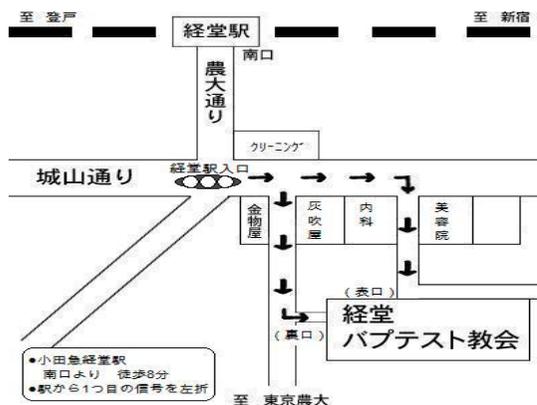
- かわいい讃美歌を歌って、聖書のやさしいお話を聞きます。お祈りもします。

毎週日曜日 午前10時～10時20分

教会学校（成人科）

- 礼拝の中で、牧師のお話を聞いて、感想や意見を述べ合います。わからないところは質問もできます。

毎週日曜日 礼拝後



経堂バプテスト教会

牧師 間瀬 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

※当教会はプロテスタント教会です。エホバの証人、モルモン教、統一協会などとは異なります。